

芦川～かぶと造りの家と 石垣の風景(中学生向け)

笛吹市教育委員会

かぶと造り民家とは？

- ・カイコを育て、絹糸をとる「養蚕（ようさん）」が盛んだった峡東地域に多い農家の家の形。
- ・1階に人が暮らし、2階でカイコを育てる。
- ・2階にカイコに必要な、光と風を確保するために、屋根の一部を改造している。
- ・正面から見ると、武士の兜（かぶと）のような形をしている。

かぶと造りの家（屋根に注目）



どんなところに家がある？

- ・上空からの写真で見ると、上芦川、新井原、中芦川は、雪がとけているところに家があることがわかる。
- ・ところが、鶯宿では、雪がある場所にも家が並んでいる。しかも、雪がある場所に江戸時代の古い家もある。
- ・鶯宿は他の3集落とちょっと違う形態の集落と考えられる。何が違うのか探ってみよう。



上空から見た上芦川(冬の風景)



上空から見た新井原(冬の風景)



上空から見た中芦川(冬の風景)



上空から見た鶯宿(おうしゅく)(冬の風景)

集落の特徴

- 上芦川
- 新井原
- 中芦川
- 鶯宿

上芦川集落の特徴

- 若彦路は、甲斐の古道として古くから人々の往来があり、戦国時代には関所が設けられていました。上芦川集落は、武田家が若彦路沿いに設けた関所（口留番所）を中心に発展した集落です。関所があった付近には今でも上芦川の道祖神が祀られ、古い石垣も残っています。関所付近には17世紀に建てられた家があり、今でも生活が営まれています。集落内には水路が巡らされ、石垣と古民家と清らかな水路の景観をつくっています。30棟以上の茅葺民家が残ります。

調べてみよう

- ・若彦路とは：甲斐の国(山梨県)と駿河の国(静岡県)を結ぶ古代の道。静岡県富士宮市から山梨県富士河口湖町大石を通り、笛吹市芦川町上芦川、八代町奈良原を通して甲府盆地に入る。
- ・ヤマトタケルの子供のワカタケルが通ったという伝説があり、若彦路(ワカヒコジ)と呼ばれている。

関所(口留番所)と集落のはじまり

- 戦国時代から江戸時代前期にかけて、諏訪神社東付近に関所(口留番所)があったことが最近の絵図や古文書の調査からわかってきました。また、戦国時代末から江戸時代初期(慶長年間)には、この付近に数軒の屋敷があり、その後、東側に向かって新しい家が増えていったことがわかってきました。その後、関所は今の東林寺付近に移され、明治時代に廃止されました。

17世紀、18世紀の家

- 上芦川集落の中ほどには、17世紀、18世紀に建てられた家が数軒あり、今でも住宅として使われています。内部は今の生活にあわせて改造されていますが、大黒柱や大きな梁などは、ほぼ建築当時のままに残されています。



上芦川諏訪神社



若彦路の旧関所跡付近



東林寺



東林寺前の題目塔(だいもくとう)と50回忌の二股塔婆(ふたまたとうば)

調べてみよう

- ・題目塔とは：南無妙法蓮華經という文字が彫られた石碑。日蓮宗のお寺の近くにある。「ひげ文字」と呼ばれる独特な書体で彫られている。
- ・二股塔婆とは：仏教で、お釈迦様の骨を納めた塔をストウーパと呼びます。その塔の姿を表現したものが五輪塔や卒塔婆（そとうば）です。芦川では、死後50回忌を迎えるとき、二股塔婆という独特の形の卒塔婆をつくります。



18世紀中頃に建てられた家＝現在は解体修理され活用されています。



馬頭觀音

探してみよう

- ・古くからある道沿いには、石で作られた道しるべや馬頭観音などが置かれています。
- ・馬は、荷物を運んだり、乗ったりと、人々の移動にはとても役に立ちました。馬頭観音は旅の途中で亡くなった馬を供養したり、旅の安全を祈るために置かれました。上芦川の若彦路沿いの石垣の中には写真のような馬頭観音が置かれています。見つけられるかな？

新井原集落の特徴

- 新井原集落は、石垣職人や茅葺職人も住んでいました。明治時代に静岡から新井原に移り住んだ石垣職人は、名人と呼ばれ、芦川各地に美しい石垣を残しています。
- 新井原にも4軒の18世紀に造られた家があります。茅葺民家は10棟以上あります。



新井原御堂(阿弥陀堂)

明治の名人の石垣

- 名人の石垣は鶯宿の本国寺、長徳寺などの高い石垣を参考に、その特徴を真似ながら積んでいます。参考にした本国寺や長徳寺の石垣は、お城の石垣のように見えますが、これらのお寺の石垣も、お城の石垣技術から真似できるところを真似て積み、真似できないところはそれっぽくごまかして積んでいます。



明治の名人の石垣

中芦川集落の特徴

- 石垣によって段状に造成された屋敷地が広がり、屋敷林と石垣が織り成す景観が特徴的な集落です。
- 道祖神、秋葉山塔、月待などの石造物が各所に残り、集落内の道と石造物の景観も中芦川集落の特徴となっています。中芦川の道祖神は、直径1m程の丸石道祖神で、1月14日の祭日には、華やかなオヤマギが立ちます。
- 中芦川にも18世紀の家が1棟確認されています。
- 境川町に貞享2年(1685年)の中芦川の絵図が残っています。
- 茅葺民家は40棟以上残っています。



白髭神社



宝珠寺



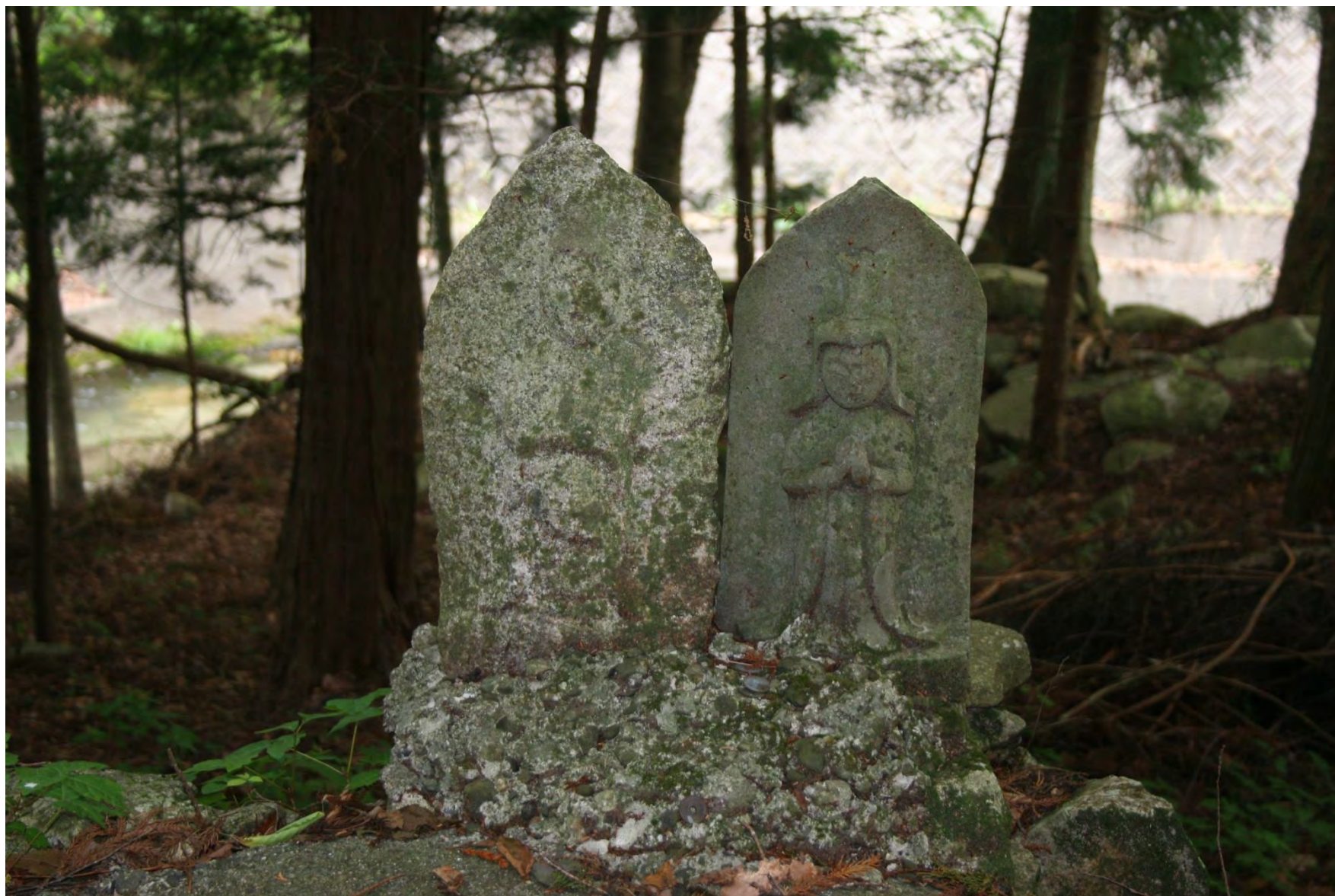
宝珠寺裏山の百番観音



中芦川道祖神祭り



中芦川道祖神と秋葉塔



中芦川馬頭觀音



秋葉山灯籠

鶯宿集落の特徴

- 鶯宿(おうしゅく)は、中道往還(なかみちおうかん)を通る商人の宿場町として発展してきました。中道往還の歴史は古く、奈良、京都などの都と甲斐国を結ぶ最古の道といわれています。戦国時代末には、徳川家康がこの道を通り甲斐国に入りました。
- 鶯宿には、足利義澄(あしかがよしずみ)に関わる伝説があります。
- 鶯宿集落にも多くの兜造民家が残ります。ほとんどが茅葺屋根にトタンを被せた姿で今に伝わっています。茅葺民家は50棟以上残っています。



鶯宿諏訪神社



長徳寺石垣供養塔



長徳寺



本国寺



鶯宿集落兜造民家群

- ・芦川集落には、江戸時代や明治時代の古い民家がたくさん残っています。これらの民家を後世に残すために、解体修理や茅葺き屋根の修理をしました。



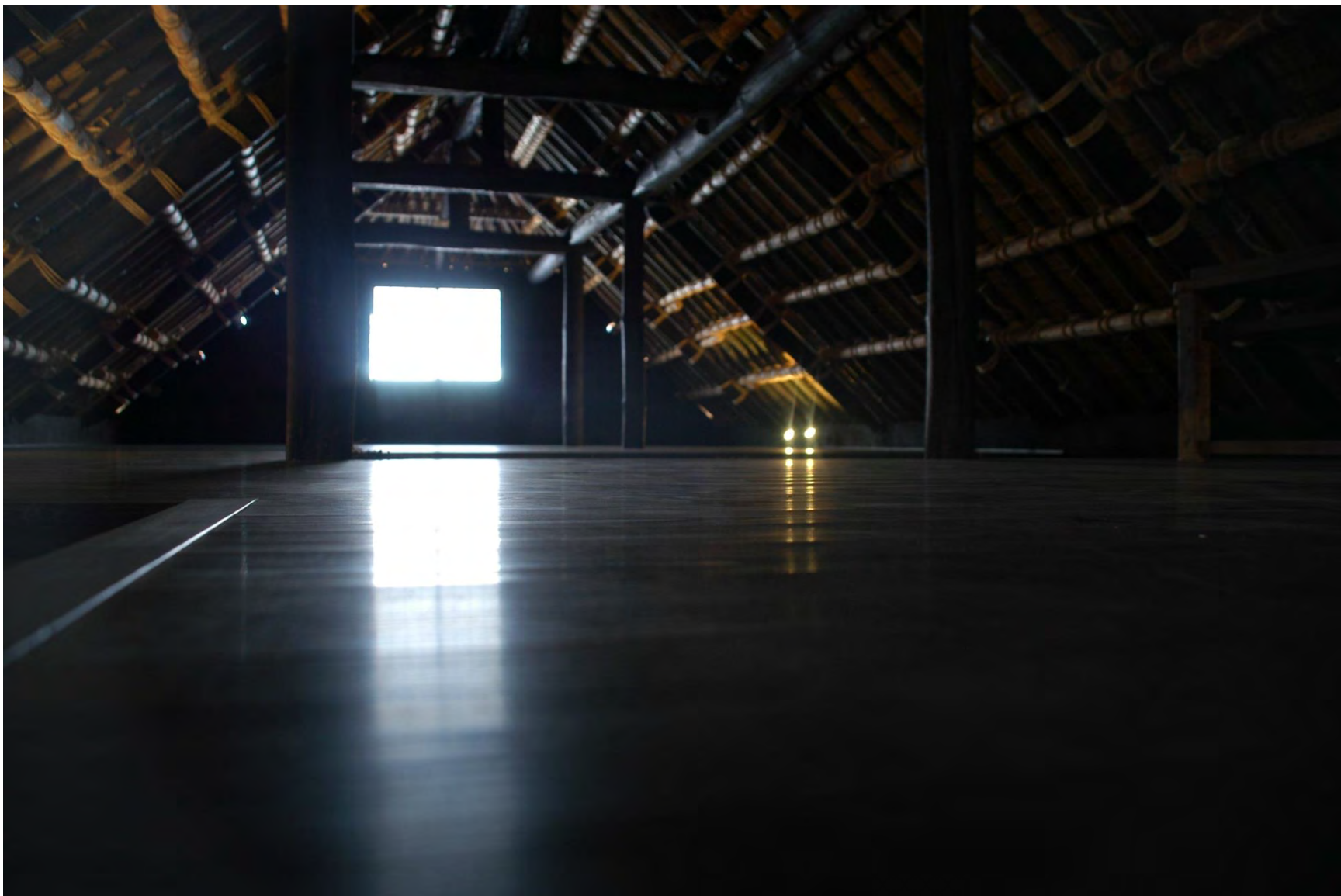
上芦川の古い民家。あの俳優と一緒にCMで使われました。



兜造り民家藤原邸の解体修理



藤原邸解体修理完了



修理を終えた藤原邸二階



藤原邸くつろぎの空間